

『表現と言葉』

セラピスト・カウンセラーなどの立場でクライアントと関わるという場面だけでなく、親として子どもと関わる、または職場の部下と接するにせよ、あなたが人と指導的立場で関わる

場合、短期的な考えでなく、長期的目線で関わる事が重要です。

例えば夫婦の離婚相談を受けたとします。あなたがアドバイスをして離婚の危機を克服したとしても、それも一時的なものであると捉えるべきです。その後夫婦を続けていく際にまた壁にぶつかって、ボタンの掛け違いが起こったり、別の次元での問題が起こるかもしれません。

健康面の場合であっても同じです。クライアントがガンを患っていて、運動や食事、または何らかの治療、そしてメンタル面でのアドバイスにおいて、クライアントがガンを克服できたとしても、その後再発する可能性だって十分あります。

つまり、あなたが指導的立場として人と関わっていくならば、関わりは長期的目線で考えなければならないのです。

一時的に派手な打ち上げ花火のようなモノも時に必要ではありますが、その必要性はあくまで長期的目線から考えた上での判断である必要があります。

長期的目線とは、最低でも5年、できれば10年や20年先を見据えてのクライアントへのアドバイスである事が望ましいです。

だからこそ、あなたが指導的立場であるならば、データフィールドのレベルを高くして、あなた自身が物事を俯瞰して捉えられる高い意識が必要となります。

そして、主観的ではなく、できるだけ客観的に物事を捉えられる洞察力も必要となります。

クライアントやあなたの大切な人との関わりには、長い時間寄り添ってあげる必要があるのです。

しかし、長い時間寄り添ってあげると言ってもわたし達には物理的に制限があります。それも時間をかけていられないのも事実です。また、あなたが職業としてクライアントと関わっているなら、クライアントが増えれば増えるほどそれだけ一人に時間を割くとなると、クライアントの経済的負担が大きくならざる終えなくなるでしょう。

しかし、できるだけたくさんの方と、できるだけ長い時間、できるだけ寄り添いたい。そのためにはどうしたらいいのか？この事を考え続けた結果、私には確信的な答えが見つかりました。

話しは少しそれますが、私は小学校3年生か4年生の時に進研ゼミの通信教育を受講していました。今振り返ると貧乏な家庭だったにも関わらず受講させてくれたのは、私が勉強に関心を持っているという事への両親の愛情だったと思います。その教材は、毎月テキストが送られてきて、答案用紙に記入して送ると、赤ペンで答案用紙にチェックしてくれて返送されるというものでした。その答案用紙に毎月教科の問題とは全く無関係の質問項目

がありました。おそらく個人的なコミュニケーションを目的とした項目だったのでしょうか。私の記憶の想起ですので正確性に欠けるところはあるかと思いますが、ある月の質問項目が『最近キミが失敗したことは何ですか？』というような問いでした。私は当時から両親の喧嘩が絶えなかったので、その問いに対して『毎日失敗の連続です』と書いて返答しました。その返答に対して、『キミは詩人だね！』というコメントが返ってきたのです。小学生の私にはそのコメントが飛び上がるくらいに嬉しくて、母親に意気揚々と『こんな風に返ってきたよ！』と共有した覚えがあります。その言葉が私のその後の人生に大きく影響を与えました。私は発する言葉の美しさをいつも考えるようになったのです。また、書籍の執筆やこの脳大成理論の手引きなどの私の文才は、この言葉が原点にあると実感しています。

また、私が18歳の頃交通事故をして自殺を考えていた時にとあるカウンセラーが私に「人生に乗り越えられないハードルはないんだよ」と言った言葉も私をずっと支え続けてきた言葉ですし、今でも私の座右の銘となっています。

あなたにも、逆境の時に勇気づけられた言葉、辛く苦しい暗黒に光を差してくれた言葉というものがあるはずです。言葉は、ずっと寄り添って幾度となく勇気を与えてくれるのです。言葉にはそういった力があるのです。

そうです、クライアントに長い時間寄り添い続けられるのは『言葉』なのです。私は、手引きの本項のテーマにあげた『できるだけたくさんの方と、できるだけ長い時間、できるだけ寄り添いたい。そのためにはどうしたらいいのか？』に対する答えは『言葉を届ける事である』と見いだしたのです。

それは『あなたにもできる！』という、決まったものをあなたができるようにするという質のものではなく『あなたにしかできない！』ものを見つけて欲しいのです。

とかく現代社会は、有名な人、経済的に成功した人に注目が行きがちです。しかし、過去の偉人や聖人でもなく、著名人や成功者でもなく、あなたの表現による言葉を発して欲しいのです。

もし『社会的にあなたは何点でしょうか？』という全国共通の社会人向け評価テストがあったとして、あなたは何点でしょうか？自己評価ではありません。社会的に何点でしょうかというテストです。あなたは30点でしょうか？50点でしょうか？おそらく有名人や成功者は高得点でしょう。でも、わたし達が見いだしたいのは、そんなあなたにしかできない表現なのです。

30点のあなたから発せられるあなたの本物の表現。誇張せず、かっこつけず、30点のあなたのありのままのあなたから発せられる表現。その表現だからこそ胸に響く人がいるのです。そして、その言葉を探して欲しいです。

人は、その人のあり方から様々な行動を起こします。あり方によって行動が規定されます。その人がどんな人かは、その人が発する言葉や行動を見れば判断できます。

つまり『人は表現するところのものである』なのです。

あなたの表現が、あなたが何者なのかを表しているのです。あなたのあり方は、表現に表れるのです。

わたし達はどこかで失敗を恐れています。恥をかくことを恐れています。ですが、志に向かい、可能性の最大を、自己実現の最大を目指し、エンラージメントを人生で起こし続けるなら、それらの恐れは不要です。

失敗や恥を恐れる余り、間違わないように正しい答えを出そうとしてしまいがちですが、クライアントは正しい答えが欲しいわけではありません。あなたと何らかの縁で、運命で出会ったその人は、あなたの表現するところの言葉を求めているのです。

ですので、

正しくあろうとするのではなく、自分の目指すところのものであってください。

あなたの人生観から発せられる表現を見つけてください。その土台となるのが、あなたにしか表現できない自己哲学なのです。これを脳大成理論では『セルフフィロソフィズム～自己哲学主義～』と言っています。

あなたの自己哲学から発せられるあなたにしか表現できない言葉が、クライアントの胸に響き、クライアントはその言葉をずっと胸に秘めて生きていくのです。クライアントはその言葉で様々な人生での逆境の際に勇気づけられるのです。その言葉であれば、あなたはクライアントとずっと寄り添ってあげられるのです。

私がまだ交通事故を起こす前の18歳の時の事です。私はミュージシャンになることが夢でした。その事を知っていた父親は、私が音楽の専門学校に行きたいと言っていた事を母親から聞いて、ある日自宅で突然私を呼びつけて「音楽の専門学校に行きたいんだらう？俺が入学費は何とかしてやる！」と言い放ってすぐに布団に隠れるように寝てしまいました。当時の私は「お金もないくせに何言ってるんだ!？」と、父親の言葉に怒りを感じながらも嬉しかったのを覚えています。実際に父親は入学費の工面において段取りできるような経済状態ではありませんでしたし、計画性も信憑性もない発言でした。しかし、その言葉は父親にしか表現できない言葉でしたし、その言葉が私の胸に今でも残っています。ぶっきらぼうで、何の美しさもない言葉です。でも、その言葉が嬉しかったのです。

今では私は父親を心から尊敬しています。『人は表現するところのものである』なのです。

あなたにしか表現できないあなたの言葉、つまり、あなたのスタイルを見つける事が、長くクライアントと寄り添ってあげられる最上の方法なのです。